

参 考 手 本

清雲、炎暉を却ける

清雲
炎暉
却

高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

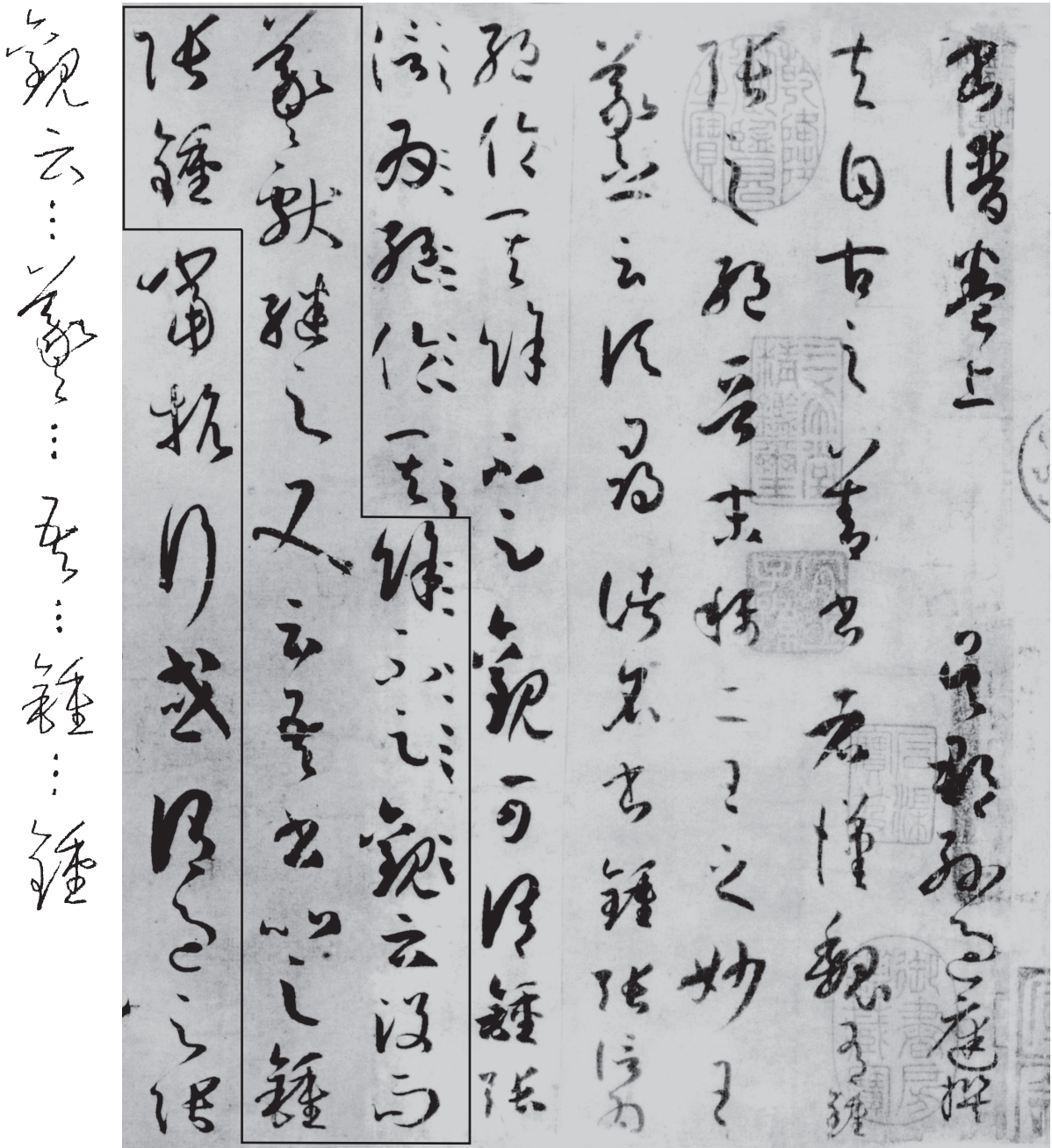
参 考 手 本

荷香酒盃に随う

荷香酒盃に随う

成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。



書譜卷上 吳郡孫過庭撰。

夫自古之善書者。漢魏有鍾

張之絕。晉末稱二王之妙。王

羲之云。頃尋諸名書。鍾張信爲

絕倫。其餘不足觀。可謂鍾張

(信爲絕倫其餘不足觀) 云沒。而

羲獻繼之。又云。吾書比之鍾

張。鍾當抗行。或謂過之。張

書譜卷上 吳郡の孫過庭撰す。夫れ

古よりの書を善くする者は、漢魏

に鍾張の絶有り、晋末に二王の

妙を称す。王羲之云く、頃諸

の名書を尋ぬるに、鍾張は信に(絶

倫)たり。其の余は觀るに足らずと。

謂う可し、鍾張云に没して、羲獻之

を繼ぐと。又云く、吾が書は之を鍾

張に比すれば、鍾には当に抗行すべ

く、或いは謂えらく、之に過ぎんと。

張の

【今月の課題】

「餘不足觀云沒而羲獻繼

之又云吾書比之鍾張鍾

(20字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

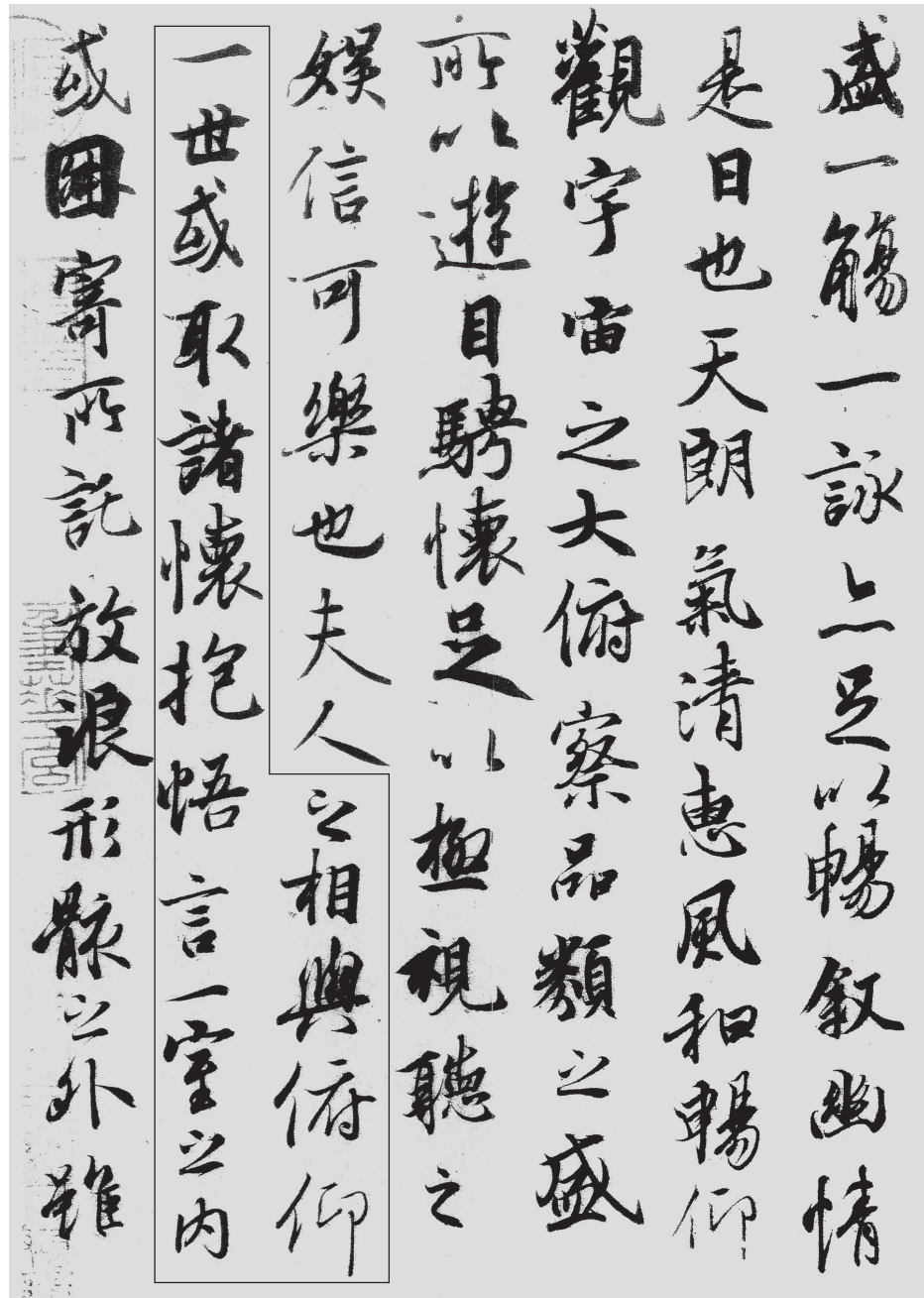
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(9月10日締切)

条 幅 規 定

B 部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



興世取室

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

盛。一觴一詠。亦足以暢叙幽情。
是日也。天朗氣清。惠風和暢。仰
觀宇宙之大。俯察品類之盛。
所以遊目騁懷。足以極視聽之
娛。信可樂也。夫人之相與俯仰
一世。或取諸懷抱。悟言一室之內。
或因寄所託。放浪形骸之外。雖
盛無^{いへど}しと雖^{いっしょういちえい}も、一觴一詠、亦た以
て幽情を暢叙するに足る。
是の日や、天朗らかに氣清み、惠風
和暢す。仰いでは宇宙の大を觀
俯して品類の盛んなるを察す。所以
に目を遊ばしめ懷を騁せ、以て視
聽の娛しみを極むるに足れり。信
に樂しむ可きなり。夫れ人の相い
に一世に俯仰するや、或いは諸を
懷抱に取つて、一室の内に悟言し、
或いは寄せて託する所に因つて、
形骸の外に放浪す。

【今月の課題】

「之相與俯仰一世或取諸
懷抱悟言一室之內」

（18字）

（9月10日締切）

曹全碑（漢・作者不詳）

西或家敦煌

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

隴西に居り或いは敦煌に家して

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

之者痼疾皆愈

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隷書
〔二級以下〕楷書

之を飲む者、痼疾皆な愈えたりと。

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（9月10日締切）

条幅参考手本

方宅十餘畝 草屋八九間 榆柳蔭後簷 桃李羅堂前

板垣厲跳先生

方宅十餘畝 草屋八九間 榆柳蔭後簷 桃李羅堂前
方宅十畝 草屋八九間 榆柳後簷を蔭ひ 桃李堂前に羅なる

鈴木翫惠先生

鴈還空渚在 人去落潮翻 臨水獸揮手 殘陽歸掩門

鴈還空渚在 人去落潮翻 臨水獸揮手 殘陽歸掩門
鴈還つて空渚在り 人去つて落潮翻る 水に臨んで独り手を揮へば 殘陽歸つて門を掩ふ

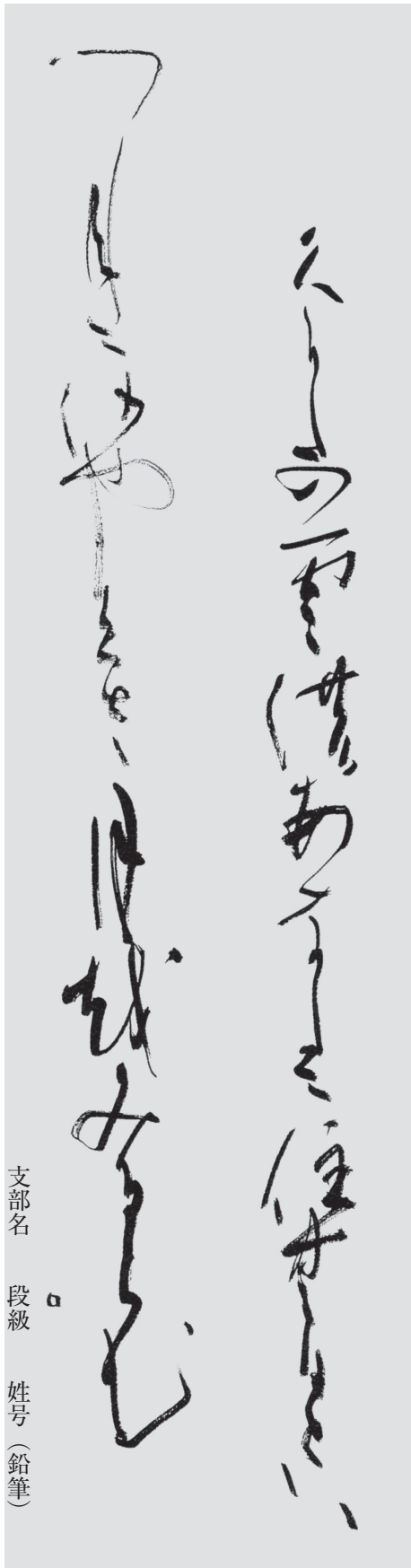
条幅参考手本

条幅かな



大野珠映先生

井梧涼葉動 鄰杵秋聲發 獨向檐下眠 覺來半牀月
井梧涼葉動き 鄰杵秋聲發す 獨り檐下に向つて眠り 覺來たれば半牀の月



浮乗清郷先生

ひさかたの雲のあなたに住む人は常にさやけき月を見るらむ (良寛)
久可多 濃 奈多二 無日と八つ年二沙 个 越み

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆)

(9月10日締切)

半紙かな（１級～８級）

松風に誘はれて鳴く蟬一つ（日野草城）

※ちらし文字変換は自由

支部名 級 姓 号（鉛筆）

松風
蟬一つ

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

いざ歌へ我立ち舞はむむば玉のこよひの月にいねらるべしや（良寛）

※ちらし文字変換は自由

支部名 段 姓 号（鉛筆）

いざ歌へ我立ち舞はむむば玉のこよひの月にいねらるべしや

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（９月１０日締切）

浮 乗 清 郷 先 生

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

目ざし弱い秋が清爽な夕ぐれを
私におくる燃えた心と沈める智
慧のやうにふかい瞳にもの思ふ
尼のやうに瞑想心で私をみるべく
又部名 段級 姓 号

鈴木 翡翠 恵 先生

(9月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より
P38

主幹 菅野 翠濤

如意羊鋒款印篆隸
如意羊鋒款印篆隸
如意羊鋒款印篆隸
如意羊鋒款印篆隸

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隸書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

如^{にょ}意^い 欵^{かん}印^{いん}
意^い 思^しうま^まま。
落^{らく}欵^{かん}印。

(9月10日締切)

硬筆（１級以下）

2行、楷書

長岡花火には空襲の犠牲者を追悼
する思いが込められている。
支部 級 姓 号

齊藤 翡翠流先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

夕立の後の空に虹が儼々浮かぶ。
濡れた舗道に夏の香りが残り
鮮やかな年顔が広がる。
支部 級 姓 号

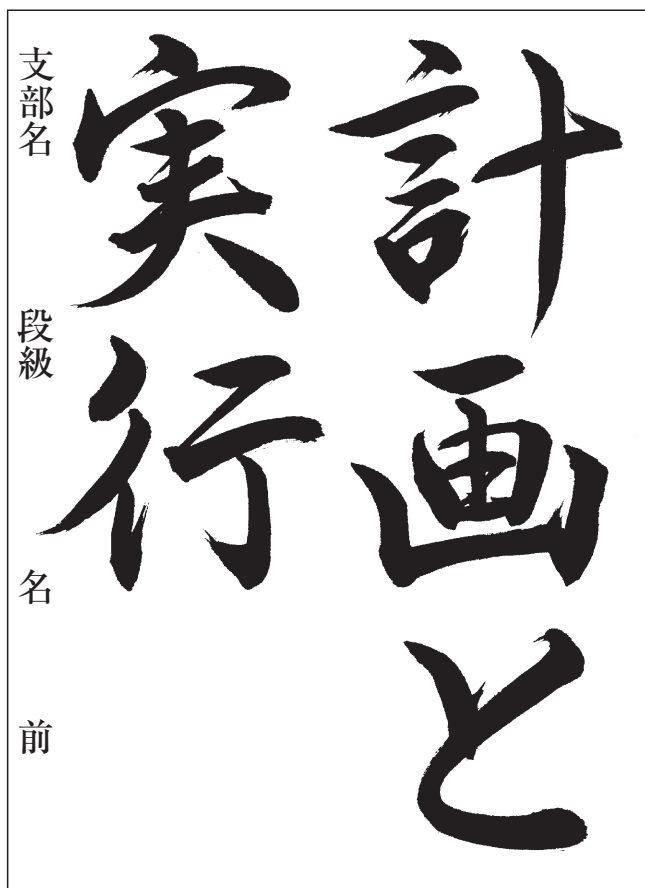
…後の…濡れた…残り…余韻…。

青柳 江雲先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

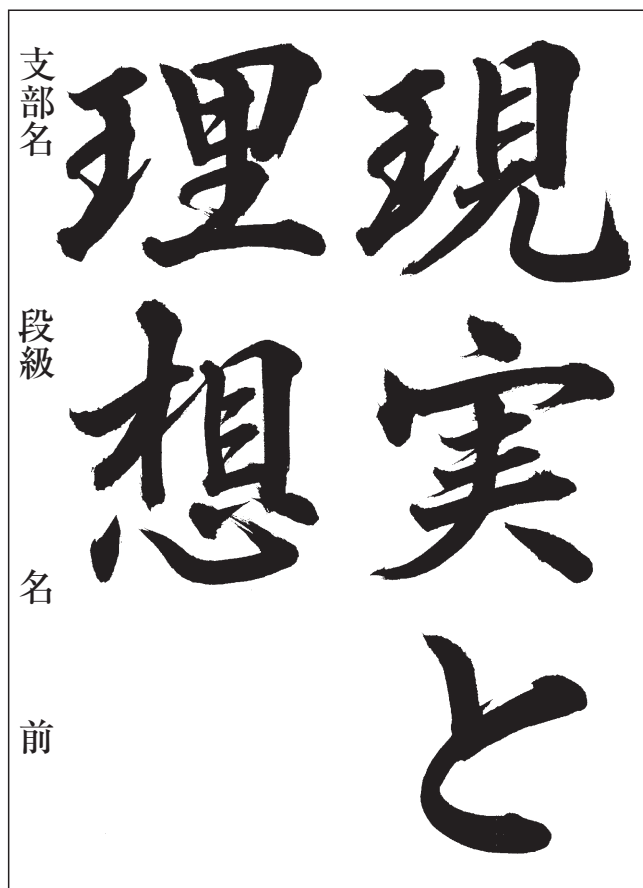
（9月10日締切）

中2用



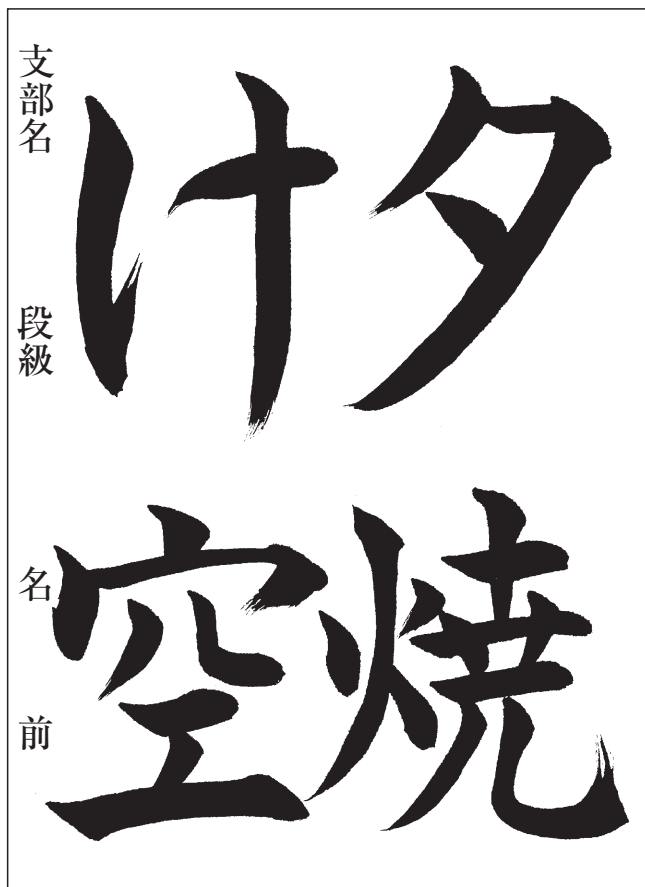
渡邊南嶂先生

中3用



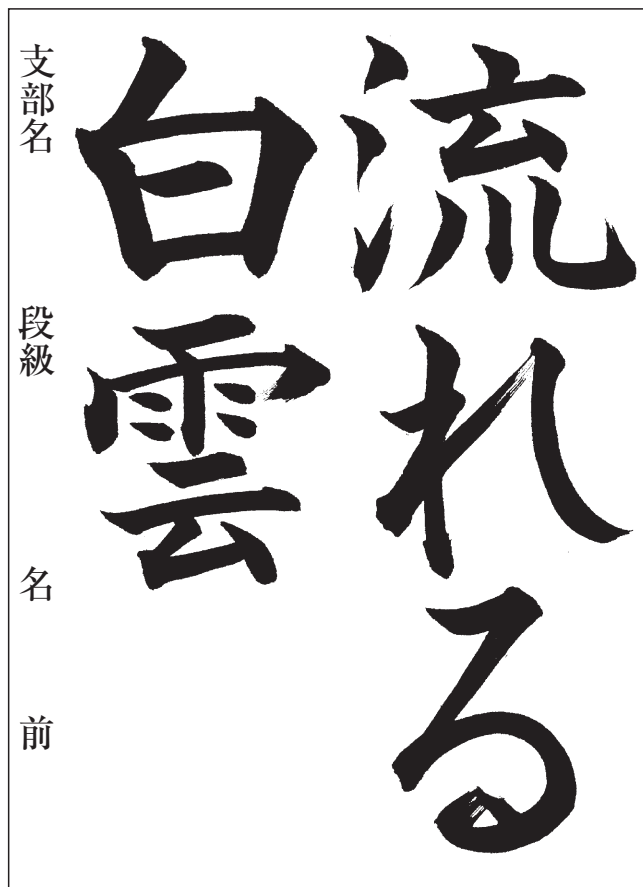
大越三宗先生

小6用



渡邊南嶂先生

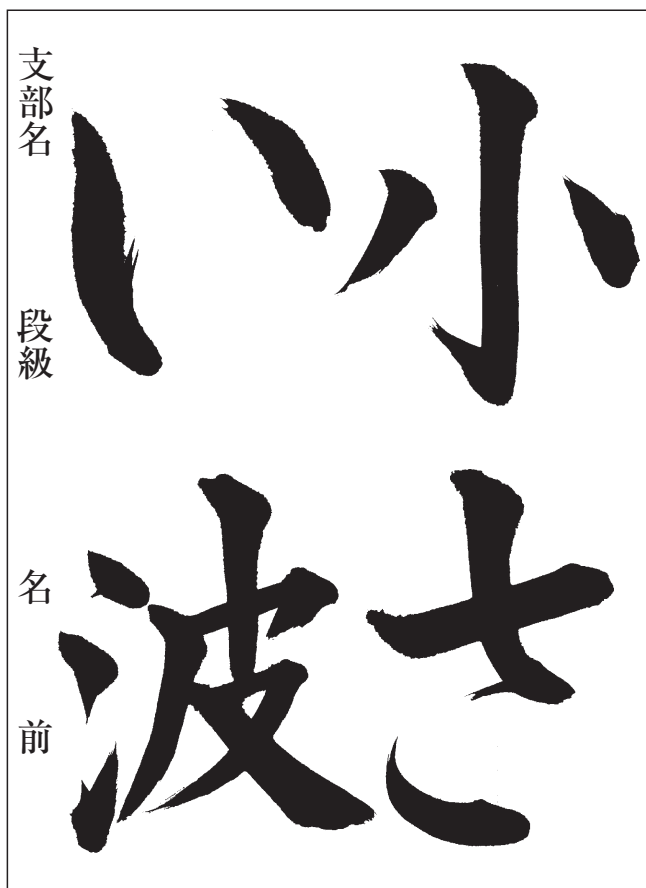
中1用



渡邊南嶂先生

(9月10日締切)

小4用



支
部
名

段
級

名
前

大
越
三
宗
先
生

小5用



支
部
名

段
級

名
前

大
越
三
宗
先
生

小2用



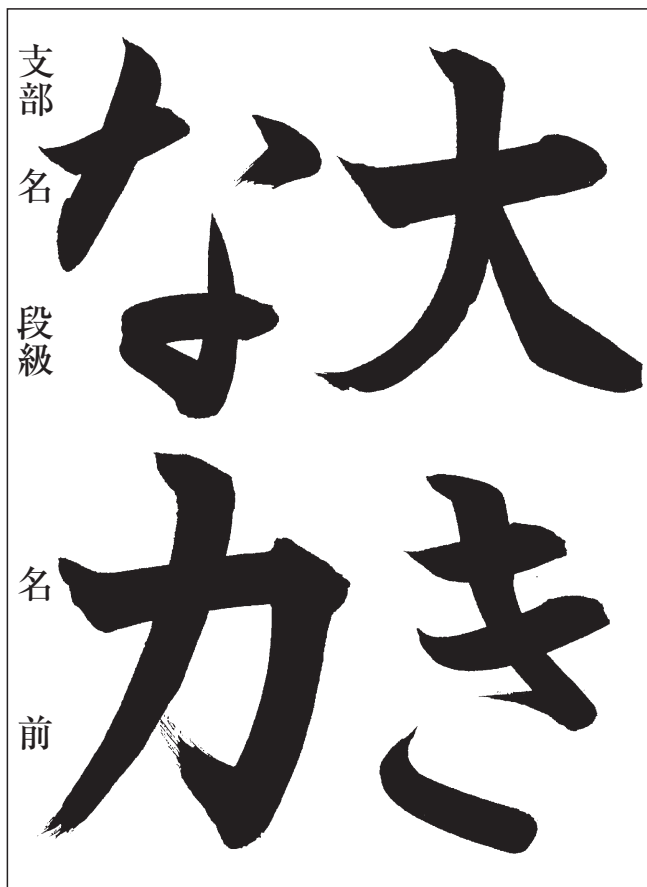
支
部
名

段
級

名
前

鈴
木
翡
恵
先
生

小3用



支
部
名

段
級

名
前

鈴
木
翡
恵
先
生

(9月10日締切)

中1

く 森
の の
食 植
物 物
を は
提 動
供 物
す に
る 多

中1～中3

中2

断 心
が が
正 迷
確 う
に と
で 物
き 事
な の
い 判

青

柳

中3

の 越
世 後
界 平
が 野
広 は
が 一
っ 面
て 緑
い 色
る

雲

先 生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

とま

鈴木 恵 先生

小1・幼年

たい み
い ん
そ な
う で
を な
し か
ま よ
す く

小1～小3

小2

して 花
あ 子
そ さ
び ん
ま と
し ゲ
た ー
ム
を

齊

藤

翡

小3

行 夏
れ に
つ は
を 一
よ に
く わ
見 だ
る け
の

流

先 生

小4

く 高
て 原
秋 の
を 風
感 は
じ も
ま う
す つ
め
た

小4～小6

小5

ない 風
湖 が
面 お
に だ
光 や
が か
広 で
が 波
る の

鈴

木

蕙

小6

た 友
作 だ
文 ち
に と
書 祭
こ り
う に
。 参
加
し

翠

先 生

(9月10日締切)

小学部小筆課題

支部名		主幹	菅野翠濤
段級		菅野翠濤	
名前	海辺の風		
前	ながれ星		

中学部かな課題

支部名		船久保 棠苑先生
段級		
名前	石も木も	
前	眼にひかるあつそかな	

※半紙半分に書いて下さい。(9月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

10月10日締切課題予告

A部条幅規定 當抗行或謂過之張草猶當雁行然張精熟池水盡

B部条幅規定 或寄所託放浪形骸之外雖趣舍萬殊靜躁不

かな条幅規定 和田の原八重のしほぢに飛ぶ雁のつばさのなみに秋風ぞ吹く(源実朝)

半紙規定(初段以上) 枝分葉布所 半紙規定(一級以下) 然則神物之

半紙かな(初段以上) 松のねに風のしらべを任せては立田姫こそ秋はひくらし(壬生忠岑)

半紙かな(一級以下) 山川のくだくる水に秋の蝶(高浜虚子)

実用文 夕潮青き海原にすなどりすべく漕ぎくれば巻きては開く波の上の鷗の

夢も冷やかに浮び流るゝ海草の目にも幽かに見ゆるかな

一般硬筆初段以上 金木屋の香りがふと風に乗り、足を止めれば秋の気配がそつと

広がる。季節の移ろいは静かだ。

10月10日締切並びに後期昇段級試験学生部課題10月15日締切予告

一般硬筆一級以下 良質なコシヒカリを栽培するためには適切な水管理が大事です。

中三毛筆 芸術の世界

中二毛筆 秋の夕暮れ

中一毛筆 京都の名所

小六毛筆 星の研究

小五毛筆 台風の日

小四毛筆 日本ばれ

小三毛筆 虫めがね

小二毛筆 コアラ

小一毛筆 いぬ

小学部小筆 秋の田に黄金の波

令和7年後期昇段試験要項

左記により令和7年後期昇段試験を施行いたします。

*作品締切 ・ 漢字 仮名部 9月9日(火)

・ 実用文 細字 硬筆部 9月22日(月)

◎漢字部 臨書課題

◆A部 六段・五段に応試(用紙・聯落 $\frac{1}{4}$ つき)

楷書 欧陽詢・皇甫誕碑

P・20 参照

行草書 米芾・苕溪詩卷

P・20 参照

隸書 礼器碑

P・21 参照

◆B部 四段・三段に応試(用紙・謙慎サイズ40cm×160cm)

楷書 蘇慈墓誌銘

P・21 参照

行草書 董其昌・行草書卷

P・22 参照

隸書 曹全碑

P・22 参照

◆C部 二段に応試(用紙・半切)

楷書 欧陽詢・九成宮醴泉銘

P・23 参照

行草書 王羲之・集字聖教序

P・23 参照

隸書 曹全碑

P・24 参照

◆D部 初段に応試(用紙・半切)

楷書 欧陽詢・九成宮醴泉銘

P・24 参照

行書 王羲之・蘭亭序

P・25 参照

※級から級への受験者はD部に応試のこと。

◎かな部

◆A部 六段・五段に応試

(イ)聯落 $\frac{1}{4}$ つき以内「たて」に揮毫

山里の風すさまじき夕暮に木の葉みだれてものぞかなしき(藤原秀能)

(ロ)全懷紙「たて」に揮毫

あき風のふきにし日よりひさかたのあまの河原にたたぬ日はなし(古今和歌集)

(ハ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「小島切」を半紙半分相当(たて)に書く

◆B部 四段・三段に応試

(イ)聯落 $\frac{1}{4}$ つき以内「たて」に揮毫

照る月の秋しも殊にさやけきは散る紅葉ばを夜も見よとか(後撰和歌集)

(ロ)半切 $\frac{1}{2}$ 「たて」に揮毫

しら露をこぼさぬ萩のうねりかな(松尾芭蕉)

(ハ)古典臨書(揮毫部分は任意)「関戸本古今集」7～8行相当(たて)に書く

◆C部 二段・初段に応試

(イ)半切「たて」に揮毫

雲はみなはらひはてたる秋風を松に残して月を見るかな(藤原良経)

(ロ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「高野切第一種」を4～5行相当(たて)に書く

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

◎実用文

半紙タテ書き。落款は行書又は草書

◆A部（準三段以上に応試）

『普通印は書者の名や号を刻したものを用いますが、書者の姓名、雅号ではなく好みの詩句や成語を刻したものを遊印といいます。文人達に多く用いられました。』

◆B部（二段以下に応試）

『書の文字間、点画間の気持ちの繋がりが、流れを気脈という。優れた作品は、線が続いていなくても気脈が貫通していると感じられる。』

◎細字部

半紙横書き、落款は楷書・旧漢字使用

（初段受験の方は楷行草の三体、準二段以上受験の方は楷行草隸の四体を揮毫して下さい。）

『時望水雲無限處 蕭然獨聽隔林鍾』

※級から級への受験者は草書までを揮毫のこと。

◎硬筆部

◆A部 六段・五段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。（書風は自由・落款は各体に書く。）
『書の学習には手本を忠実に真似る形臨、手本の筆意を汲むことに重点を置く意臨、練習後、手本を見ないで書く背臨がある。』

◆B部 四段〜準二段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。（書風は自由・落款は各体に書く。）
『章法とは字形、字間・行間の余白、墨の潤濁、線質等を考え、調和のとれた作品にまとめる事です。』

◆C部 初段に応試

本院定型用紙タテ半分に、楷・行別葉に揮毫のこと。（書風は自由・落款は各体に書く。）

『命毛とは筆の先端のことで、毛筆の性能を左右する処です。』

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

※合格者には合格証を発行します。

※手本希望の方は手本代と返送用封筒（切手添付）を同封して直接希望の師範へ依頼して下さい。

※揮毫した師範は一回限り無料添削の義務あるものとし、二回以上添削希望の者はその師範の指示に従って下さい。

※漢字作品出品の際、提出作品を、楷・行草・隸の順に重ね、一番上の作品の左下に鉛筆で支部名・現在の段級・姓号を記入して下さい。（仮名作品はそれぞれに鉛筆で記入）

※バーコード出品券にも現在の段級を記入し、一枚だけ貼り付けて下さい。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

後期昇段試験課題（六段・五段）

楷書 皇甫誕碑（唐・歐陽詢）

蕭相降昴緯之淵精據德依仁
居貞體道含章表質詎待變於
朱藍恭孝為基寧取訓

中国法書選 29 P 13 ~ 14

蕭相。降昴緯之淑精。據德依仁。居貞體道。含章表質。詎待變於朱藍。恭孝為基。寧取訓（33字）

行草書 苕溪詩卷（宋・米芾）

松竹留因夏。溪山去為秋。久賡白雪詠。更度采菱謳。縷會玉鱸堆案。團金橘滿洲。水宮無限（35字）

中国法書選 48 P 14 ~ 15

松竹留因夏。溪山去為秋。久賡白雪詠。更度采菱謳。縷會玉鱸堆案。團金橘滿洲。水宮無限（35字）

後期昇段試験課題

(四段・三段)

(六段・五段)

隸書 礼器碑（後漢・作者不詳）



中国法書選5 P 9 ~ 12

亂不尊圖書倍道畔德離敗聖 輿食糧亡于沙丘君於園造立 禮器樂之音符鍾磬瑟（33字）

※中国書法選では欠字になっており園は書かなくてもかまいません。

楷書 蘇慈墓誌銘（隋・作者不詳）



中国法書選26 P 56 ~ 57



其年。重出聘齊。受天子之命。問諸侯之俗。延譽而出周境。（22字）

後期昇段試験課題（四段・三段）

行草書 董其昌「行草書卷」（明）

中国法書選51 P 10～11

衆生狹劣故以華嚴廣之以應
起書也衆生執著故以法華解

衆生狹劣。故以華嚴廣之。以癡起教也。衆生執着。故以法華解（24字）

隸書 曹全碑（後漢・作者不詳）

中国法書選8 P 8

尉北地太守父瑋少貫名州郡不幸早世是以位不副德君
奉早世是以位不副德君

尉北地太守父瑋少貫名州郡不幸早世是以位不副德君（23字）

後期昇段試験課題（二段）

楷書 九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）

同堯肌之如腊甚禹足之
胼胝針石屢加腠

中国法書選 31 P 13

同堯肌之如腊甚禹足之胼胝針石屢加腠（17字）

行草書 集字聖教序（東晉・王羲之）

生四時無形潛寒暑以化物
是以窺天鑑地而

中国法書選 16 P 3

生四時無形潛寒暑以化物是以窺天鑑地而（18字）

後期昇段試験課題

(初 段)

承以石檻。引爲一渠。其清若鏡。味甘如醴。(16字)



楷書 九成宮醴泉銘(唐・歐陽詢)

中国法書選 31 P 21

(二 段)

隸書 曹全碑(後漢・作者不詳)



涼州常爲治中別駕紀綱萬里朱紫不繆出(17字)

中国法書選 8 P 11・12

後期昇段試験課題（初段）

◎昇段試験 受験料

	六～準五段 受験	四～準三段 受験	二～準二段 受験	初段 受験
漢 字	4950円	4400円	3850円	3300円
か な	4950円	4400円	3850円	3300円
実用文	3850円	3300円	2750円	2200円
細 字	3850円	3300円	2750円	2200円
硬 筆	3850円	3300円	2750円	2200円

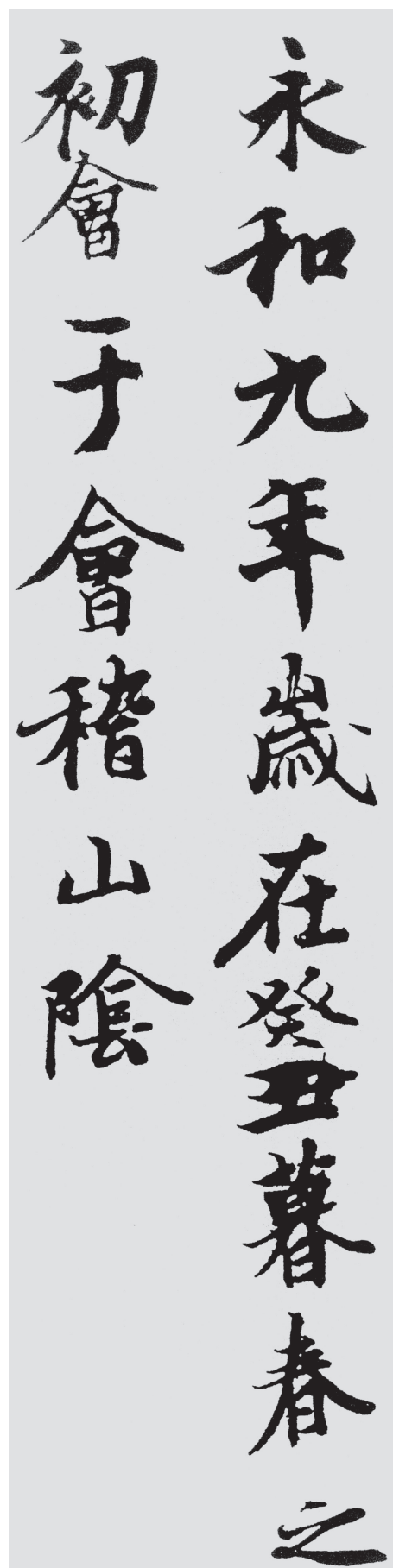
（税 込）

◎昇段試験 手本代（参考価格）

	六～準五段 受験	四～準三段 受験	二～準二段 受験	初段 受験
漢 字 (1書体)	5000円	3500円	2500円	2000円
か な (1セット)	8500円	7500円	6000円	6000円
実用文	2000円	2000円	1500円	1500円
細 字	2500円	2500円	2500円	2000円
硬 筆 (1セット)	7000円	6000円	6000円	3000円

（税 別）

永和九年。歳在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰（18字）



行書 蘭亭序（東晋・王羲之）

中国法書選15 P 14